



from Washington, D.C.



D.C.は自転車好きにとって最高の街

## 自転車通勤の先進都市

春から秋にかけて、ワシントンD.C.（通称D.C.）では、自転車に乗っている人をたくさん見かけます。特に朝晩の通勤時間帯には、交通渋滞を横目に軽快に走り抜けていく自転車に羨望のまなざしが向けられます。

最近のある調査結果によれば、D.C. 近郊の通勤時間は全米でも特に長く、通勤圏の拡大等に伴い、近年、ますます長くなる傾向にあります。そうした中、自転車または徒歩で通勤する者の割合が高いことがD.C.の特徴として挙げられています。その割合は、全米平均では3%程度に過ぎませんが、D.C.では20%程度にも上り、2000年に比べ4倍も増えたそうです。

D.C.で自転車通勤が普及している背景として、先に挙げた通勤圏の拡大に伴う交通渋滞の悪化に加え、自転車シェアサービスの普及や自転車に適した恵まれた自然環境も見逃せません。

日本でも近年広がり始めている自転車シェアサ

ービスは、米国では、2008年にD.C.で初めて導入されました。現在ではD.C.近郊の州にもサービスを拡大し、3,000台以上の自転車、370以上の拠点（シェアスポット）を有するまでになっています。拠点に設置された無人のシステムを使って24時間365日いつでも利用でき、会員になれば毎回30分まで無料で借りられることも大きな魅力の一つです。

また、D.C.周辺は、高低差があまりないほか、長いもので30キロにも及ぶ自転車専用トレイルが多数整備されています。ポトマック川沿いや廃線となった鉄道の線路跡を走るものなど、四季折々の自然を楽しめるコースが用意されています。

D.C.を訪れる機会があれば、自転車に乗ってD.C.の郊外まで足を延ばしてみたいかでしょうか。政治の街とは異なるD.C.の側面を発見できると思います。

（国際通貨基金、本部：ワシントンD.C.）

\*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



自転車シェアの拠点は、駅や観光スポットの前など至るところで見かける。写真は、筆者の職場前に設置されている拠点



自転車トレイルの入り口は住宅街付近にも多数あり、アクセスも容易